

文化史編

一、先史時代

(一) 旧石器時代のあらまし

土器を伴わず石を材料にして利器をつくり使用した時代で、人類文化の発展段階の最も古い時代である。普通無土器時代・あるいは先土器時代ともいい、旧石器、中石器、新石器にわけられ、さらに旧石器時代を前・中・後期に区分しており、約一万年以前より二〇〇万年前に至る長い時代である。地質学では洪積世こうせきせいにあたる。

旧石器時代はすべて打製石器を使用しており、中石器時代ごろになると細石器や磨製石器が出現し、弓矢の発明、土器の製作がはじまる。生活は狩猟しゅりやう、漁労ぎょらうであった。新石器時代になると地質学では沖積世ちゅうせきせいに属し、動植物相も現代とほとんど同じようになってくる。

日本では無土器時代、縄文時代、そして弥生時代まで石器を使用している。

福島県では昭和四十六・五十七年の塩坪遺跡（高郷村）の学術調査により、今から一万年以前の遺物が出土している。その後各地より旧石器時代の遺跡が確認されており、本村では加納鉦山跡の丸山遺跡があてはまるようであるが、なお検討を要する。

(二) 縄文時代のあらまし

今から一万年ごろ日本列島が大陸から分かれたことにも述べたが、そこに南から、西から、北から渡来した人類は一つの日本民族を形成し、表面に縄目の文様のある最古の土器をつくりだした。この土器文化の時代を縄文文化時代といい、他説もあるが一万年前後もつづいたといわれている。

縄文時代人はこの種の土器を使い、狩や漁や採集の生活をしてきた。この長い時代を六つに区分し、草創・前・中・後・晩期としている。全国的にみて遺跡数は数多く、県内でも三〇〇〇か所以上も確認されている。